

國民政府に答訪特派大使

平沼、有田、永井三氏を派遣



氏郎太柳井永

敵の機動完全粉碎

戒心すべき米の空母建造

第二次ソ
モン海戦

平出大佐放送

[illegible]

特派大使並に隨員

外務省發表

(廿八日午後四時)中國駐歐戰局之最近之消息(元)

歐戰自茲以來之來勢、在歐戰之諸國、戰事之激化、大體顯露無疑。吾人、對於歐戰之趨向、雖難預言、然戰事之激化、顯著之趨勢、固已見之。帝國政府、爲全般國民政府に、使を各訪するに、日本大使の提擧を、さらに一段と強化し、目的をもつて、中華民國に特派大使を派遣することに決定せり。

駐歐戰局之最近之消息、歐戰自茲以來之來勢、在歐戰之諸國、戰事之激化、大體顯露無疑。吾人、對於歐戰之趨向、雖難預言、然戰事之激化、顯著之趨勢、固已見之。帝國政府、爲全般國民政府に、使を各訪するに、日本大使の提擧を、さらに一段と強化し、目的をもつて、中華民國に特派大使を派遣することに決定せり。

除へば務めをもつて、厳密に御むとにも、即時露日日本と協力を以て燃指目的の達成なるを達成をはかるべき點は、明白となり、兩國政府は、大東亞戦争の終局に至るまで、この見解を一貫するを見る。この見解からいへば、要するところは、帝國聯合政府は大東亞戦争の現段階にかんがひ日華提携のいよいよ緊要なるを痛感することにも、國民政府發展のために、は全幅の力を惜まざるものにして、今、東京特派員派遣の趣旨よりまたここに存する次第なりなるものは師範院には、近々、東洋東部の飛入り

三大使の略歴

正五位勳三等	中井川 浩
同	飯田 包亮
正六位	平原 重幸

同 同
遼山 龍男
瑯山 省

通と誤はれた、氏は佐渡の出身
本年五十九歳の働き盛り、明治
四十二年、東大園法卒後、外務
省に入り、爾來外交官として海

完全消化薬と異なり、バインを主成分とし、胃腸を健全に保つた。東亞細亞の國民運動を遠開する上に重大な意義が

永井柳太郎
する答訪のため特派大
差遣

三十有餘年のほとんど全生涯を
外交官生活に送りその間興亞外
交確立、東亞新秩序圖建設のた
めに頻率して隨處開隨一の支那

第一入者が全く新しい建設途上に就任、現在東亞民旅研究所の所長在り、東亞民旅研究所所長する支那問題の第一人者たる、しかして氏が今回東亞民旅研究所に就任するに際しては、

平沼騏一郎
有田八郎

宇治田直義
牛久孝四郎
荒木 武行
有田八郎氏

員として、また日本貿易振興會會長、大東亞運籌委員會などにおいて外交畑を代表して参選し活躍中である、留ヶ岡支那通の選題の案に沿してゐる、支那を觀察すること数回に政黨人中の支那通で昭和十三年賀會の發足と同時に東京

特派大使ならびに閣員は二十八

川田 瑞穂

外務次官、同七年警務内閣
に遷り、同十二年近衛内閣
に遷り、同十四年内閣の
蔵相兼鐵道相などを歴任、
結果であつた。現在は資質疏
朗の信念が外交に歷きたといふ有田の信念が高く評價された

附は先づ之を聲明を發し東亞新報に建

この趣旨はまたこゝに在

稱號をしたことは耳新しい、十五年米内閣の西貨外相として、近十三年外務参事官、昭和

するところありたるが、帝國政
 もに日華兩國の提携を
 民國に特派大使を派遣す

府は今般國民政府に
さらに一段と強化す
ることに決定せり、
満洲に密着に懸へるところなり
のみ日華提携のいよく
展のためには全幅の協

帝國政府は大東亞戦争の現段階にかんがひ、緊要なるを痛感するとともに國民政府發効力を惜まざるものにして、今次特派大使派

(廿八日午後四時)中華民

大東亞戦争の遂に對する公使致函
 閣下政府よりはさきには主席（元
 固不成の稱許をもつて發言に臨む
 ばかるべき旨の決意を明かにした

とともに、同時に日本と協力して終極目的の完全なる達成を
 るが、爾來各段の應策につき右決意の着々具現せらるゝを見る

1

12

42

[illegible][illegible][illegible]

るに▲はあ胡で窮りは明條▲つ金の地ひの金な

九月號

定價五十錢

文藝春秋

昭和十八年度

工場教科書

目錄
進呈

日本文藝の発展

思想戰の目標 大串 現夫

民族精神と其實現 デュルクハイム

劍の精神 志村陸城 きのふけふ 谷崎潤一郎

町長日記 永井三郎 戰爭と味噌汁 大橋 晴男

支那隨論 太田幸之助 統制會論 島田 隆

日本人の郷愁 三好達治 大陸開拓團 山田 隆三

蟋蟀談義 大町文術 バルカシ氏 山田 隆三

旅愁 横光 利一 愛讀文章 海老 寛

國語の本質 山田 孝雄

新刊
くはならぬ快著

本日論

座談會
勤勞能率

永田清・鈴木舜一・穂積七郎

死都(讀解)間宮茂輔

大連記井上政治

獨ノ戰展望大場彌平

第二戰線と船舶足利五郎

蠟山政道

日本經濟學の根本問題相川春喜

大東亞の交易體制制論須永重光

農村部村落體制作論須永重光

農業經濟の発展と新工業の展開

日本文學の發生折口信夫

九月份特刊
號一四三第
日本經濟學
社東京
發行所

不服従下の印度

坂本龍雄
編著
山崎
二校

話の唇端に地獄
尾崎喜八
目次
専ら
大書
区炎音

野依秀市氏快著

價一圓六〇分

戰争と選舉

北に南に大東亞戰爭は我が實力の前に捷し進み、が然し
重慶政權は未だ餘隙を保ち、米英殘存勢力は尙我に、反
擊の機を窺つてゐる。外交といひ、軍事といふも、その基
底は内政にあるを知らねばならぬ。

この秋、曠に『米英擊滅我れ勝てり』の一書を公刊して
日本朝野を鼓舞し、經綸を示威して總諒を博した著者が、
更に雄渾の構想を馳つて、大東亞戰爭の見透と衆議院總
選舉の關係性を論じ、國內諸問題を取り上げて日
本の今後を暗示してゐる渾身の力作である。總選舉にな

東京日本經濟新聞社
文閣書房發行

— 2 —

[illegible][illegible]

慰問袋や遺家族慰問など
麗し全鮮に援護運動

[illegible]

感謝大、關東軍報道隊戰史旅行

[illegible]

靖國神社秋の臨時大祭勅許

[illegible]

(中)

必要な滅私奉公

闇の横行も不親切心から

下の醫^いひを ま三井汽船^い〇〇丸^{まる}船長として居^ゐる

[illegible]

月六日—二十日
觀覽料 一般三十四錢稅
（自午前九時半至午後五時）
附設中庭可容觀衆五十人以上之遊藝會

會場總督府美術館
主 催 京城日報社
陸軍美術協會
後援 朝鮮總督府
朝鮮軍司令部

所得税など納期迫る

[illegible]

新京の東亞通信競技會

[illegible]

10

するものと考へたり
 した。私に對する忠告は
 なるなどには對して
 内野氏 今度の事に違つて
 務員が、顧問の連達一本と
 して、私を助ける必要がな
 づつて此

減私奉公

るは勿論あるけれども、時々
 は問題を抱へなければならぬと
 思ふ。この大にほんの運動、
 だ、そこ

國の繁榮の爲め、
 次は我が國の爲め、が所かか
 たる。此の爲め、の協力、
 望望の非常で、
 事進し、
 簡井健長、
 昭陽義士

の簡便化もありますし農村の收
入でも増えますが、人手の足ら

院長 醫學博士 佐藤小五郎

組番週一
金妻
大語の
番樓倫
頭の理

朝
宿
定
0 80

鮮名
精参
セッ工るたし総
備
5.00 2.22
自販所

濟洲鹽澤

[illegible]

として、痔瘻、
湯尿科、

皮膚病

廣興、協三、廣興、協三、廣興、協三

柳田 園男：
日本

後

改造社
上海南京路四〇八號



製品概目

- 發電用機器
- 通信用機器
- 鋸山用機器
- 化學工業用機器
- 製鐵製鍊用機器
- 纖維工業用機器
- 土木建築用機器
- 一般工場用機器
- 運輸荷役用機器
- 電線及燈・鋼類
- 交通用機器
- 家庭用電氣機器



資本金 三億五千八百萬圓

京城營業所 京橋區古市町十二(片倉)
電話本局 八八一(三)
八八五

平塚出張所 平塚市南町五(片倉ビル)
電話本局 四三二七

清津出張所 新潟市南町二九ノ一
電話清津 二二三



日立製作所

本店・東京・新大塚

●小兒の整腸に アメスチン●

花柳病専門

師試験 松野醫院

指定各科重要問答集

大正八年度 八八八

皇國教育映画株式會社

東京市西區新町通二ノ五六
電話 新町 四八八
右京市中區西區井通三ノ六九
電話 西區 三八七
(支店) 名古屋 支店設中

三カ

スグ

有(有)無(有)名

布 塗 透 滲

新 品 試 験 品 試 験 品 試 験 品

紅 色 衣 裝 品 蘭 花 生 花 店 現 代 派

徒 集

金 集

城 職 業 介 所

金 紹 介 所

民俗學入門

教 育 者

山 政 道 著

東 亞 と 世 界

支 那 經 済 研 究

パピリオ

クレム三種、A B C あり。

粉白粉十二色 新しし肌色四種

はく紅十二色

東京麻布本村町伊東化学研究所

和度尿性病

決算公告

大正八年度

和度尿性病

決算公告

大正八年度

和度尿性病

和度尿性病

京城電氣會

大正八年度

京城電氣會

京城電氣會

